

芦生からの便り 第8回



こんにちは！芦生研究林です。
今回は、5月に行われた芦生研究林主催の「芦生の森自然観察会（入門編）」の様子をご紹介します。

この観察会は、副題を『春の森を歩きながら樹木観察をしよう』というものです。芦生研究林の技術職員が主体となり、平成18年の秋から始まったもので、春秋の年二回行っていますから、今回で四回目ということになります。教員主体の夏の公開講座とは違い、この観察会は、芦生研究林の技術職員自らの手作りでやっているのが、大きな特徴と言えるでしょう。毎回、その会のリーダー役も 持ち回りですることになっています。今回は、リーダー役のO君（20代半ば）のもと、全職員がそれぞれ分担したパートを遂行した訳です。

この観察会では教員は私一人ですし、「想定外の仕事」の時のような、どちらかと言えば、ここでは教員は添え物？なのです。ま、何か事が起こった時の責任取りだけのモノ、と申しましょうか…。(笑)
観察会の主役は、あくまで技術職員…！！

平成18年の最初の時には、ホームページだけでなく、チラシや新聞等でも募集を行った結果、定員20名に対し197名の応募があるという、嬉しい誤算がありました。その後、選別も難しい作業ですので（応募してくださった方全員に参加していただきたい気持ちですので）、その次からは、ホームページからだけの募集にしました。今回も、ホームページからだけの募集で、それでも、65名の応募がありました。嬉しいことです…。

その中から、抽選で20名の参加者を決め、今回の観察会は行われました。（直前のキャンセルがあったので、実際の参加者は16名です）

この日は、あいにく時折、雨の降る一日でしたが、芦生の新緑をお楽しみ頂けたのではないかと思います。小雨に煙る森というのも、ロマンチック？なのですよ！

…毎回、思うのですが、参加者の皆さん、本当に熱心ですね。無料ということも大きく関係しているのですが、それでも送迎はありません。芦生研究林の「現地集合」ですので、交通費は、もちろんかかります。遠い人は、日帰りの観察会でも、前日、何処へ泊まらなければならない事もあるでしょう。そうまでして来てくださる参加者の皆さんには、頭が下がる思いです。

こうまでして応募してくださることは、芦生の森が好きだというのが一番でしょう。でも、それと同時に、芦生技術職員の手作りの観察会への「無言のエール」だと思っております。

無論、終わった後にアンケートを書いていただきますが、それに書かれた事よりも、次の観察会の応募をしてくださる、口コミで広がっていく、ということに無言のエールを感じてしまうのは、私が単に年をとり、涙もろくなったせいでありましょうか…？(笑)

この春の観察会も、技術職員達は本当に良くやってくれました。非常勤のNさんも、他の職員が知らない間に開会式の部屋に花を生けておいてくれました。（さすが、女性ならではの気配り?! 一同、感激しました）

終わった後のミーティングでも、今回の反省と共に、さっそく、秋の観察会のリーダー役が決まりました。

こうして、職員達の責任感と連帯意識は、少しずつですが出来上がっているように見えます。

今の若者は…、という声も巷ではよく聞きますが、こうして、任してみることも大人の役目ではなかろうかと、思う昨今です。

(文：芝 正己)



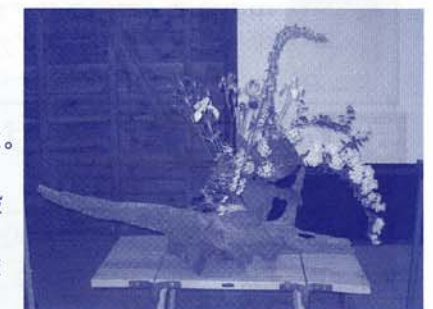
出発を控えて



観察会風景



観察会風景



心配りの花



著者プロフィール

芝 正己（しば まさみ）

京都大学フィールド科学教育研究センター（森林環境情報学研究分野 准教授）所属。

京都大学および宮崎大学・三重大学を経て1997年10月より現在に至る。

専門は、森林利用学、森林管理・情報学。

これまでの主な研究テーマは、

- ① 森林の経営基盤整備計画・評価法に関する研究、
- ② 持続可能な森林管理と森林認証制度に関する研究、
- ③ 森林の資源利用と保全計画に関する研究。